

— 所沢飛行場ものがたり —

日本初の飛行場誕生



「飛行場」に適した所沢

明治 42(1909)年 7月 30日、勅令が発令され、日本における最初の公的な航空機研究機関**臨時軍用気球研究会**が設立されました。陸海軍、帝国大学、中央气象台の共同に加えて天皇による勅令という制定方法から、明治政府や軍が飛行機をいかに重要視していたかがうかがえます。明治 43(1910)年 4月 11日、陸軍の**日野熊蔵大尉**と**徳川好敏大尉**が「飛行機操縦法の習得」「飛行機購入」のため**ドイツ・フランスに派遣**されました。

「臨時軍用気球研究会」では航空について研究するための本格的飛行場が必要になり、適地を求めて首都周辺を調査し、検討した結果、所沢町から松井村にかけての地区が選出されました。

所沢選定の理由として、

- ① 首都に近い
- ② 鉄道をはじめ交通が発達している
- ③ 気流が安定している
- ④ 起伏が少なく平らな地形である

ことをあげています。所沢町も松井村も飛行場開設を町村の発展の機会として積極的にとらえ、敷地として総面積 23 万坪強 (さいたまスーパーアリーナ 17 個分) の宅地・畑・山林・墓地を当時の金額で 76,500 円で売却を決めました。**飛行場の整備は明治 43(1910)年 10月に着工**しました。旧松井村大字下新井字上カサノ上地に、幅 50 メートル、長さ 400 メートルの滑走路と格納庫、気象観測所を備えた**日本初の飛行場として臨時軍用気球研究会所沢試験場(所沢飛行場)**が明治 44(1911)年 4月 1日に開設され、後に**所沢陸軍飛行場**と呼ばれました。



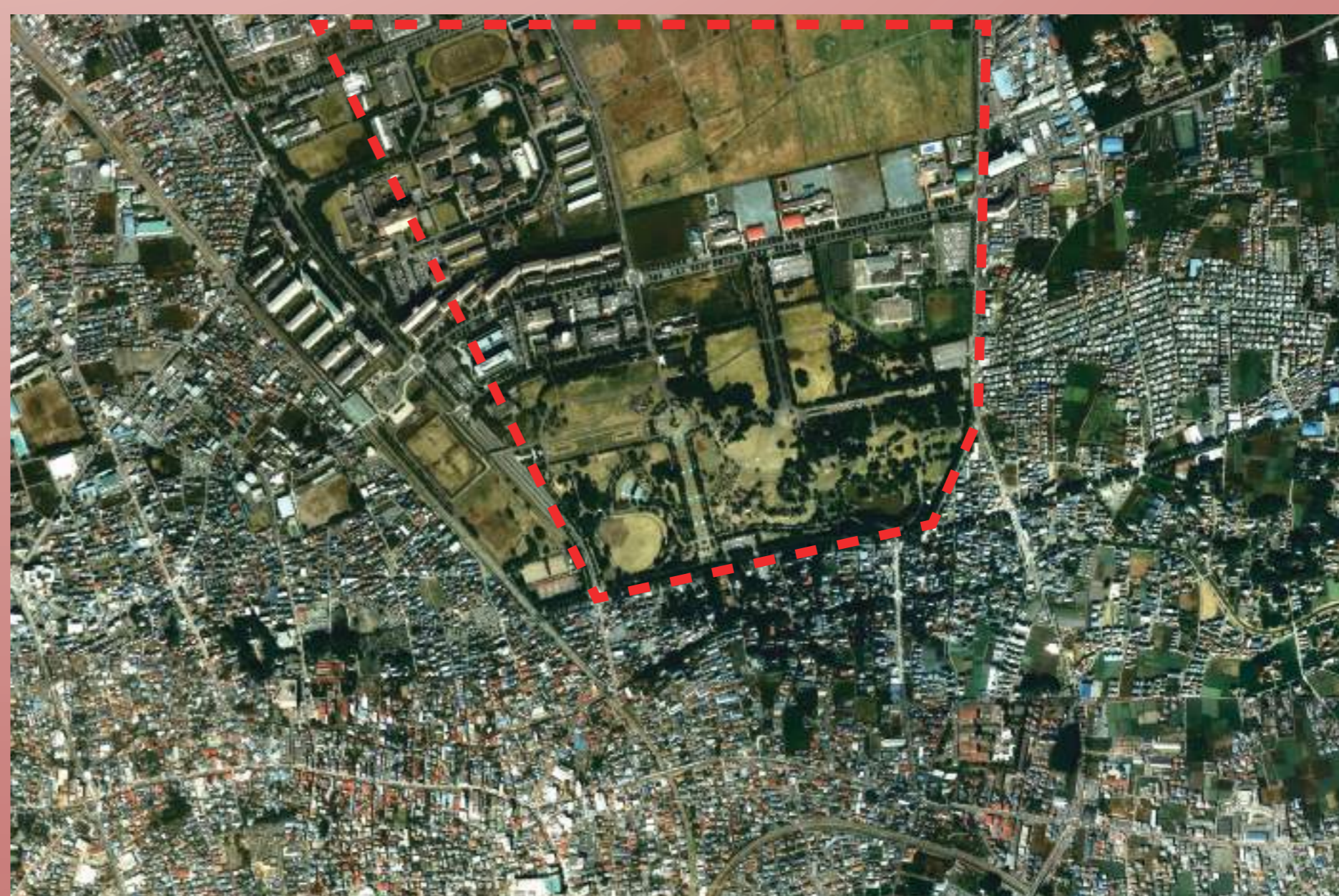
所沢飛行場。左奥に気象観測所が見える。



所沢飛行場のシンボルであった気象観測所



大正初期の所沢飛行場 (赤い点線内) 左下は所沢駅



平成元(1989)年の所沢飛行場跡地の一部 (赤い点線内)